

中学校部会実践まとめ

【成果等】

- ・現地理解という観点から、ブラジルを取り上げて関心あるトピックを詳しく調べることは何よりも本人の勉強になるし、聞く側も興味を持って聞くことができました。教室内の子どもたちも自分の発表を待ちながら、他の発表をしっかりと聞いていたのではないのでしょうか。
- ・聞き手がA～Dで項目毎に聞き手の内容を評価（パフォーマンス評価）をすることで、聞くための視点が定まったと思います。
- ・発表者の内容に対して、自分の生活につなげている考え、コメントしているので「つながりを深く考える」に資すると思いました。
- ・3人目の女の子の発表が抜群にいいですね。問いかけや質問、自分の生活に即した導入、自分が調べた内容に対する考察も話していて、お手本のようなものでした。
- ・導入の先生の話が5分程度だったのがとても良いと思いました。活動の時間を十分に確保できていました。
- ・研究主題と活動がマッチしていて、芯の通った実践だと思いました。
- ・録画状態が良くなく、音声も途切れ途切れで、よく聞き取れませんでした。画面共有の資料で、何とか理解できました。リオからの画像は鮮明で、音声もクリアでした。
- ・それぞれのテーマについて上手にまとめている。資料作成がしっかりできている。さすが中学生。
- ・個別の顔だけでなく、授業全体の様子や色々な角度からの授業の様子が分かり、雰囲気が伝わった。
- ・分かりやすく伝えることができていた。しっかりと聞いていた。
- ・中学生なりに、課題によく取り組んでいた。
- ・分かりやすくするには、内容のまとめ方、声のスピードや大きさなどがある。
- ・生徒たちに、ふりかえりで③と④を中心に書く指示があり、分かりやすかった。
- ・この実践を高学年部会の交流や他の交流授業にも活かしたい。
- ・各グループ上手にまとめて発表出来ていた。また、ブラジル in 日本、日本 in ブラジルなど各国の中でもそれぞれの特徴的なものが紹介され良かった。また、過去の歴史を調べることで、食べ物やなぜそれぞれの国に日本のものやブラジルのものがあるのか分かりやすかった。
- ・大人でも興味深く見ることのできる発表だった。生活の中から日本とブラジルの比較や日本がどう見られているかに意識をおいた発表は現地に住んでいる生徒にとっては関心事項なのかと思った。
- ・授業はじめに先生から発表の心構えを指導されていたので、発表者は日本とのつながりを自分の考えで、文字と言葉でわかりやすく表現していた。
- ・「ブラジルと日本の架け橋になろう」というテーマ設定が、在外教育施設的环境に合っており、生徒たちにとって主体的に取り組める要因になっていたと思います。発表では、聞き手に評価用紙を用意していたことで、観点がはっきりし目指す姿が明確になり、話し手にとっても聞き手にとっても有効な手段になっていたと思いました。
- ・「ブラジルと日本」というテーマの中で、生徒一人一人がさらに調べることを絞って伝えたいことをよくまとめていた。自分の知りたいことや興味のあることについてまとめ、発表することで理解も深まっていると感じた。また、表現方法にも個性が出ており、他の生徒の発表内容も聞いてみたいと思った。

- ・評価シートの項目について、シンプルでわかりやすかった。評価の具体を示すとさらに聞く視点が共有できると思う。
- ・日本とブラジルに関係について、現地に住んでみないとわからない情報が多くあり、どの生徒も大変興味・関心を持って聞いていたので、良かったと思います。また、発表者も、自分の興味のあるテーマを選べることができたので、主体的に調べて発表していたと思います。
- ・聞いている生徒たちも、先生から目当てを始めに聞いていたので、ポイントを絞ってまとめることができたのではないかと思います。
- ・生徒が興味関心を持ちやすいテーマだと思う。現地に行かないと分からない情報を、教室にしながら知ることができ、このような授業がこれからどんどん広がっていけばいいと思った。
- ・発表をする生徒達が自分たちの住んでいるブラジルの事を現地ならではの情報を取り入れて発表しており、参加させてもらったアグアスカリエンテス日本人学校の生徒達も非常にブラジルに対する関心や認識を高めていました。このような取り組みは、文化や社会環境等が異なる他国の日本人学校との交流でより効果が高まる感じがしました。

【課題・改善点等】

- ・教室の後ろからの風景よりも、もっと発表者に近い方がよいような気がします。発表者の様子が見たかったです。
- ・①「聞き手に考えてもらえるような工夫」②「分かりやすく伝えるための工夫」について、到達すべき項目を視覚化して目標を持たせる（ループリックを作る）ようにすると、さらに一人一人のレベルがアップすると思いました。特に①は「深める」にもつながると思います。
- ・次の発表に向けてドキュメントシートの内容をスライドにまとめていくという流れだと思いますが、今回もスライドで作成しても良いかな、と思いました。目標の項目を達成するためには、スライドを効果的に活用した「見せ方」がポイントになってくると思います。「書いてあることを読む」ではなく、「伝えるために書いてあることを効果的に使う」を目指すとともに良くなると思いました。
- ・発表者の顔を見ながら発表が聞ける環境だとなお良いなと思いました。
- ・リオの中学生1人と、どのように学習を進めたのですか。
- ・発表中のスライドと教室の画面切り替えはどうやっていたのでしょうか。
- ・資料作成は上手で分かりやすかったが、インターネット上の情報が中心だったので、そこに住んでいるからこそ分かる情報や体験談、インタビューなどが入るとより良いものになる。
- ・生徒が、「分かりやすく話す」ことをどう評価したのか。曖昧な言葉になっているのではないか。子どもたちにポイントを与えずにどう評価するのか。
- ・みんなの前で発表する難しさを感じた。
- ・ブラジルの素晴らしさや日本とのつながりを知ってもらうには、自分のものになっていないと難しい。
- ・まとめ方の指導も必要。目と言葉のバランスが必要。
- ・フィードバックされた内容をどのように最終発表（グループ発表）に活かすのか。
- ・この発表を最終発表に活かすには、お互いにもう少し発表を改善するためのアドバイスを言えればよかったのではないかな。

- ・生徒の相互評価の共有やアドバイスを知らなければよかった。
- ・ICTを使った子どもどうしの関わり合いが少ないので、もっとコミュニケーションをする時間を作る
- ・聞き取りにくかったのは、インターネット回線や機器の性能や設置環境などの改善が必要である。
- ・双方向に話し合いが進むのが難しかった。コミュニケーションできる環境（機器設定や時間設定等）が必要である。
- ・調べることがゴールではない。自分の言葉で話し、交流することが必要。これから、この経験をどう活用するのか。「架け橋になろう」というタイトルのように、日本とブラジルの架け橋になることが目標ではないか。このことを目指して、今後、進めていくことが必要。
- ・総合的な学習の時間の指導については、教師がかなり準備しておく必要がある。この次の道も探せるアドバイスが必要。
- ・発表内容のチェックも必要。間違った情報も発表内容にあった。発信するには、きっちりと確認する。
- ・教室対教室の接続になると、ネットの問題か環境機器の問題かわからないが音声聞き取りにくい状況だったので、今後の課題ではないか。
- ・声がガヤガヤ聞こえたので音声環境は課題だと感じた。
音声が聞き取りにくく、わかりにくい箇所がいくつか見受けられた。
- ・今回の発表内容は、食に偏っていたようですので、次回の発表も見てみたいと思いました。学級全体でさまざまな面からテーマに迫ることができると、より太い架け橋になれると思います。
- ・カメラの位置が発表者から遠いこと、録画の音声がやや不明瞭のところが残念でした。
- ・通信の悪さから聞き取りにくい箇所があるなど、ネット環境がもっと整ったところでできれば、子どもたちももっとやりやすくなると思う。